

きんたろう倶 卒園児と城山で植樹

コナラと共に大きく

里山再生を目指す富山市のボランティア組織「きんたろう倶楽部」は十一日、紅葉カ丘幼稚園(同市愛宕町、盛池恵美子園長)の園児と一緒に同市金屋の城山で植樹を行った。同倶楽部と同園が取り組んできた森の里親事業の一環で、園児は大きく育つようお願いを込めてコナラの苗木を植えた。

森の里親事業は、拾って植樹し、里山の再生をた木の実から苗木を育て 目指す活動。紅葉カ丘幼

稚園はおとしから事業に参加し、園児が拾ったドンクリを鉢に植えたり、ドンクリを使った工作などをしてきた。この日は活動の仕上げとして、年長児三十五人が卒園記念植樹をした。

きんたろう倶楽部のメンバーが土を掘り、コナラの苗木九本を穴に置いた。園児は土から出てきたミミズや昆虫を見て歓声を上げながら、シャベルを使って土をのせていった。昨年、同倶楽部が伐採した竹を使って作った堆肥も使った。最後に同倶楽部の山田事務局長が「この山のことを忘れず、大きくなったら育った木を見に来てください」と園児に呼び掛けた。



苗木に土をかぶせる園児ときんたろう倶楽部のメンバー